

## 終の住処

中西 卓@岡山



やがて 30 年目を迎える この地と住まいが私の終の住処である。岡山には縁もゆかりもない、業者の新聞広告を見たのがきっかけ、ふらりと来てみて一目惚れで決めたのが正解だった。

住宅メーカーが手掛けた西日本有数の大団地であるが、その当時 区画によっては空き地が多く 案内された所は斜め下方にかなり大きい池があり 低地を挟んで向こうに生駒山を小さくして裏返したような山がある。麓に桃畑が広がって、これまで住んだことがない広がり が否応なしに気に入った。その後の年月で樹木が生い茂り様変わりになったが、ネズミサシの矛先が並ぶ前景もわるくない。

自然だけではない、住む街と周りの人が良くなければであるが それは自分次第である。団地は遠方からの移住者と 近辺から住み替えの人が入り混じった多様な社会だが 過去にこだわらず気楽に話をする、シニアクラブやグラウンドゴルフで仲間が広がってきた。更に言えば、環境活動などで知り合った仲間との絆は地域を越えて繋がっている。

視野を広げて赤磐市を評価すれば 60 点程度である。それは 18 年前の町合併が当時の首長・町議らの縄張り偏見によるのが大きいと思っている。JR 瀬戸駅、警察署、税務署、県立高校などがある瀬戸町が主張した市庁舎設置を他の 4 町が譲らなかった。今 市庁舎がある山陽町は人口と財政規模が大きく商業施設が集中しているだけで、警察署が未だに（岡山市東区の）瀬戸町にあるなどインフラが貧弱でいびつである。市の中心部が垢抜けせず殺風景で緑地や公園がないのは市役所前に立ちだかる農機メーカーが新旧の県道に跨って地面を塞いでいるからだ。ここを再開発すればと提案しても誰も相手にしてくれないのは地元根付いた名門企業\*だからなのか。

次にわが住居について述べる。家の前に 7m 程の車道と両側に歩道があって、街路樹のあくら（クロガネモチ）が並ぶ。マイカーと宅配便などのトラックや軽トラが走る、散歩やランニングの人もあり、朝は近くの小学校へグループに分かれて 70 人ばかり



が登校、出勤に近くのバス停へ急ぐ人もあって、20年前は寂しかった近辺に生活感が出てきた。

▼拙宅前の道路は広いバス道路に繋がる手前でカーブしているが、そのカーブのために敷地が扇型で南北軸が45度西へ振っている、西陽が強く見方によっては欠陥かもしれないが建物を薄っぺらく前庭を広くした。イチヨウ、コブシ、アメリカフウ、マユミ、ヤマボウシ、マロニエなどが元気に育っている。ブロック塀でなく常緑のギンモクセイを生垣にしたのは景観と温暖化対策に寄与しているつもり。庭仕事が苦にならない自分であるが夏場は雑草に追われ、三脚に立つのがしんどくなってきたのでいつまで続けられるか不安だ。

▼家そのものには満足していない。グループホームを夢見てリフォームするなら薪ストーブと床暖房、壁と天井の内張クロスを別々の色に変え、天井灯を壁付照明にしたいが実現できないのは自分自身がよくわかっている。

これまでの河内、丹後からすれば備前は格段に快適で、リタイア後をここで過ごせたのは幸いで有難いことだと周りに感謝するばかりである。

上は都市圏に住まれる多くの方からみれば、田舎者のつぶやきに過ぎないと思うが大目に見ていただきたい。（おわり）

（注） \*旧山陽町に根差した農機メーカーで、バイオの研究開発、プラスチック成型の独自技術などを持つ、ゴルフ場やホテルも、無借金の堅実経営、市内で納税トップ企業